

地域の資源を活用し、地域社会と連携した観光教育 イラン出身 ヴァファダーリ・カゼム准教授の取り組み

ヴァファダーリ・カゼム准教授（アジア太平洋学部、観光学）は、県内の高校生に地域資源を利用した観光について教えるプロジェクトを実施しています。2018年10月11日（木）に大分県立由布高等学校の観光コースの生徒が、翌12日（金）には大分県立国東高等学校の2年生で総合的な学習の時間に国際交流を選択する生徒がAPUを訪れ、プロジェクトのミーティングをカゼム准教授とゼミ生らと行いました。

由布高校の観光コースとは、一昨年前より由布市の観光について共同研究を行っており、今年で3年目。本年はハーブを使った商品開発をテーマに取り組んでいます。6月には、由布高校の学生とカゼム准教授のゼミ生らが同市でステビアやラベンダーなどのハーブの植え付けを行いました。今回のミーティングでは、栽培したハーブを使用したハーブティや石鹸を試作り、今後商品として売出す為にはどのような工夫が必要かアイデアを出し合いました。



左から、ゼミ生と由布高校の生徒が植えたハーブ/栽培したラベンダーを使い石鹸を試作の様子/由布高校の生徒とカゼム准教授とゼミ生ら。

国東高校とは、2013年に「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農業水産循環」として世界農業遺産に指定された国東市の「ため池」を巡る「ため池ウォーク」のガイドブックを英訳した英語版の観光ガイドマップの作成をしています。単なる観光地としてではなく、農業遺産としての価値をあらゆる世代の観光客にどの様に伝えることができるかを考え、意見を出し合いました。



左から、どのようなガイドにするべきか意見を出し合う様子/生徒らに向けて「ため池」の歴史について語るカゼム准教授。

カゼム准教授のコメント

APUの一教員として、地域社会に貢献できるよう活動しています。由布高校は県内で唯一観光を専攻するコースがあることから、3年前に校長先生より、観光コースの生徒への指導について直々にお誘い頂き、活動を始めました。国東高校とは、国東市が世界農業遺産に申請した際に、専門家として協力したことをきっかけに交流するようになりました。国東高校の生徒を国東の農業遺産の将来を担う人材として育てていきたいと思っています。

●カゼム准教授の大分・国東半島の世界農業遺産を推進した取り組みについては、2015年の日経ビジネスONLINE×APU特集でのインタビューをご覧ください。
https://special.nikkeibp.co.jp/as/201501/apu/teacher04_1.html

